

平成23年度病虫害発生予報第4号の発表について

向こう1か月の主要な病虫害の発生予察情報については、次のとおりです。

- ・ 水稲では、梅雨時期となり曇りや雨の日が多く、いもち病が発生しやすい気象条件となっているため、注意が必要です。なお、育苗箱施用剤を使用している場合でも、剤の残効期間に留意の上、本田の状況をよく把握し、必要に応じて補完防除を実施してください。
- ・ 果樹では、なしの黒星病、もものせん孔細菌病、ぶどうのべと病の発生が多くなっています。

病虫害防除に関する留意点

- ・ 1か月予報（7月1日気象庁発表）では、北日本及び東日本日本海側で曇りや雨の日が多く、全国的に平均気温が高いと予報されており、病害の発生が多くなることが考えられます。
- ・ 病虫害防除を効果的に実施するためには、病虫害の発生状況を的確に把握し、適期の防除につなげることが大切です。病虫害の発生は天候の影響を大きく受けるので、天候の状況に注意しつつ、都道府県が発表する発生予察情報に基づき、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。
- ・ 薬剤防除を実施する場合には、適切な薬剤を選択するとともに、病虫害が薬剤抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。また、農薬の使用基準を遵守し、散布対象外の農作物等に農薬が飛散しないよう対策を講じてください。
- ・ 東日本大震災の影響等により作付けが困難となった地域では、ほ場の管理が行えないことで、雑草の繁茂等により作物を加害する病虫害の発生が考えられます。そのため、周辺で作付けが行われる地域では、ほ場観察を綿密に行い、状況に応じて防除ができるよう病虫害の発生状況に注意してください。

- ・ **葉いもち**の発生は、北海道、北東北、東海、中国、四国及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。

1か月予報（7月1日気象庁発表）では、北日本及び東日本日本海側で曇りや雨の日が多く、全国的に平均気温が高いと予報されており、いもち病の発生に好適な気象条件となります。いもち病が急激に発生する場合がありますので、注意が必要です。

葉いもちの初発生時期の遅延や発病程度の低下などを期待した育苗箱施用剤の使用が普及していますが、剤の残効期間に留意の上、本田の状況をよく把握し、必要に応じて補完防除を実施してください。

また、田植え後に本田に放置された補植用取置き苗はいもち病の伝染源となるので、早期の除去を徹底してください。

- ・ **穂いもち**の発生は、四国及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。葉いもちの発生が多く上位葉に葉いもちの病斑がみられる場合は、穂いもちの発生が懸念されるので、穂ばらみ期及び穂揃い期に薬剤防除を実施してください。なお、穂いもちの多発生が予想される場合には、穂揃い期7～10日後の追加防除を実施してください。
- ・ **縞葉枯病**の発生は、関東、東海、近畿及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。

縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの発生は、南関東、中国及び四国の一部地域で「多い」、北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本ウイルスを媒介するヒメトビウンカの保毒虫率が高い値になっている地域及び前年に縞葉枯病が多発した地域においては、ヒメトビウンカの防除を適期に実施してください。なお、本害虫は薬剤抵抗性を獲得している個体群が確認されているので、都道府県から発表される情報を参考に薬剤を選択してください。

また、発病株は伝染源になるため早期に抜き取り、適切に処分してください。

- ・ **ニカメイガ**の発生は、東海及び近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。本害虫は局所的に多発する場合がありますので、本田の観察を行い、発生に応じて適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **イネミズゾウムシ**の発生は、北東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。また、イネドロオイムシの発生は、北海道の一部地域で「やや多い」、北東北、南関東及び東海の一部地域で「やや多い」と予想されます。

育苗箱施用剤による防除を実施していない場合は、都道府県が発表する発生予察情報を参考に必要に応じて防除を実施してください。

- ・ **セジロウンカ**は、南関東、東海、中国、四国及び九州の一部地域で飛来が確認されており、発生は南関東及び中国の一部地域で「やや多い」と予想されています。

本田の見回り際には、稲の株元を注意深く観察し、株元に褐色の点またはすじ状の傷（産卵痕）が目立ち、成虫及び幼虫の発生が多く見られる場合は、都道府県から発表される発生予察情報で防除適期を確認し、必要に応じて薬剤防除を実施してください。

また、都道府県等から発表される今後の飛来情報に留意するとともに、本田での発生状況に十分注意してください。

- ・ **斑点米カメムシ類**の発生は、東北及び近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本害虫の防除は、休耕田、畦畔及び水田周辺の雑草管理が基本であり、出穂期の10日前までに本田周辺の草刈りを終了させてください。出穂期直前の草刈りは、本害虫の本田への飛び込みを助長し、被害を増加させるおそれがあるので避けてください。

薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回実施が標準的です。薬剤防除時期は斑点米カメムシ類の種類構成が地域によって異なるので、都道府県から発表される発生予察情報で防除適期を確認し、薬剤防除を実施してください。

麦

- ・ **赤かび病**の発生は、南東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。本病の防除は適期を逃さず行うことが重要です。梅雨時期を迎え、防除適期に降雨が続くことが多くなりますが、降雨の合間に、確実に防除を実施してください。また、都道府県からの情報や、栽培品種の赤かび病抵抗性を考慮して、必要に応じて追加の防除を実施してください。なお、収穫は適期に確実にいき、赤かび病菌の増殖を防止するため、収穫した麦は可能な限り速やかに乾燥してください。

麦の種類	最初の防除を行う生育時期
小麦	開花を始めた時期から開花期まで
二条大麦	穂揃い期の10日後頃
六条大麦	開花を始めた時期から開花期まで

野菜・花き

露地栽培

- ・ 気温の上昇に伴い病虫害の動きも活発になるので、ほ場観察を行って病虫害の早期発見に努め、発生を認めた場合は適期に薬剤防除を実施してください。

キャベツ

- ・ **コナガ**の発生は、北海道及び東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。本害虫は、発育後期の幼虫や蛹になると薬剤が効きにくくなり防除が困難となるため、早期発見に努め、同一系統薬剤の連続使用を避けて薬剤防除を実施してください。

施設栽培

- ・ 気温の上昇に伴い、栽培管理上施設を開放する機会が増えるので、病虫害の施設への侵入及び野外への飛び出しに注意が必要です。

- ・ 施設内が過湿になると病害の発生が助長されるので、施設周辺に排水路を整備して雨水が施設内に入らないように留意し、作物の株間の風通しを図る等、過湿にならないように施設を管理してください。
- ・ ウイルス病を媒介するアザミウマ類、コナジラミ類等の施設内への侵入及び野外への飛び出しを防止するため、施設の開口部に防虫ネット等を設置するなどの対策を実施してください。
また、これらの害虫の発生源となる施設内及び周辺の定期的な除草に努めてください。
- ・ 栽培終了後は蒸し込み処理等を行い、作物残渣での生存虫を死滅させてから搬出し、確実に処分してください。

キュウリ

- ・ **べと病**の発生は、北東北、北関東及び近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本病は、施設内が過湿となると発生が助長されるので、株間の通風を図る等により、過湿にならないように施設を管理してください。また、多発すると防除が困難となるので、施設内の観察により発病を認めた場合は、早期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **アザミウマ類**の発生は、北関東の一部地域で「多い」又は「やや多い」、南東北及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本害虫は、発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、早期発見に努め、発生初期での防除を実施してください。

きく

- ・ **アザミウマ類**の発生は、北関東の一部地域で「多い」、南東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。また、アブラムシ類の発生は、南東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。
これらの害虫は、発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、早期発見に努め、発生初期での薬剤防除を実施してください。

発生が多い・やや多いと予想される病虫害及び地域

作物名／病虫害	発生が「多い」地域	発生が「やや多い」地域
キャベツ／		
コナガ		北海道、東北
ネギ／		
アザミウマ類	近畿	南関東、東海、北九州
イチゴ／		
炭そ病	南九州	中国
アブラムシ類	北関東	北陸
ハダニ類	北関東	

キュウリ／		
アザミウマ類	関東	南東北、四国
アブラムシ類	北関東	北東北、北陸、四国
べと病		北東北、北関東、近畿
トマト／		
灰色かび病		北関東
ナス／		
アザミウマ類	関東	
アブラムシ類	北関東	北陸
コナジラミ類	四国	
ハダニ類	北関東	
ピーマン／		
アブラムシ類	四国	北九州
コナジラミ類	四国	
きく／		
アザミウマ類	北関東	南東北
アブラムシ類		南東北
ハダニ類	北関東	

果樹・茶

果樹共通

- ・ **果樹カメムシ類**の発生は、北東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。本害虫は、園地周辺の山林から飛来してくるので、例年カメムシ類の被害が多い園地や、山林に隣接した園地では、園内の観察をきめ細かく行ってください。また、飛来が認められた場合は、飛来初期からの防除を実施してください。
- ・ 東日本大震災の影響等で園地の管理が行えない地域では、病虫害の発生が多くなることが懸念されます。隣接した地域では、園内の観察をきめ細かく行い、病虫害の侵入及び発生に注意してください。

かんきつ

- ・ **かいよう病**の発生は、近畿の一部地域で「多い」又は「やや多い」、東海、四国及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本病の伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分してください。また、本病は降雨が続くと発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。
特に、強風による擦れなどの傷口から容易に感染するため、風雨が強まることが予想される場合には、事前に薬剤を散布してください。
- ・ **そうか病**の発生は、四国の一部地域で「多い」、東海及び近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本病の伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分してください。また、本病は降雨が長時間続くことにより発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **ミカンハダニ**の発生は、南関東、近畿及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
夏期はカブリダニ類等有用な土着天敵が増殖し、本種の密度を抑制しますが、梅雨明け後に気温が高く雨が非常に少ない天候が長く続いた場合は、本種が多発する場合があります。園内の観察をきめ細かく行い適期に薬剤防除を実施してください。

りんご

- ・ **斑点落葉病**の発生は、北東北及び北関東の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本病は、降雨時の気温が高く、降雨が続くと発病が助長されます。また、密植や徒長枝により通風や採光が悪いと発病が多くなります。徒長枝の除去等により通風や採光を確保するとともに、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ**の発生は、北海道の一部地域で「やや多い」と予想されます。**ハマキムシ類**の発生は、「平年並」と予想されます。
都道府県が発表する発生予察情報を参考に、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。

なし

- ・ **黒星病**の発生は、東北、関東、甲信、中国及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本病の伝染源となる発病葉、発病果及び発病した新梢は、除去して園外の土中に埋める等適切に処分してください。また、本病は降雨が続くと発生が助長されるので、天候の推移に注意し、散布間隔が開きすぎないように降雨の合間に薬剤防除を実施してください。
- ・ **ナシヒメシンクイ**の発生は、関東の一部地域で「多い」又は「やや多い」、北陸及びの一部地域で「やや多い」と予想されます。**ハマキムシ類**の発生は、南関東の一部地域で「やや多い」と予想されます。
都道府県が発表する発生予察情報を参考に、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。

もも

- ・ **せん孔細菌病**の発生は、近畿の一部地域で「多い」、南東北、甲信及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本病の伝染源となる春型枝病斑を形成した枝は、除去して園外の土中に埋める等適切に処分してください。また、本病は気孔や傷口から感染し、降雨や強風により発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **ナシヒメシンクイ**及び**モモシンクイガ**の発生は、「平年並」と予想されます。
都道府県が発表する発生予察情報を参考に、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。
- ・ **モモハモグリガ**の発生は、近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。園内の観察をきめ細かく行い早期発見に努めるとともに、都道府県が発表する発生予察情報を参考に、成虫発生盛期及び若齢幼虫期をとらえた薬剤防除を実施してください。

ぶどう

- ・ **べと病**の発生は、中国の一部地域で「多い」、北九州の一部地域で「多い」又は「やや多い」、甲信及び近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本病の伝染源となる発病葉及び発病果は、除去して園外の土中に埋める等適切に処分してください。また、本病は降雨が続き気温が低めの時に発生しやすいので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

茶

- ・ **炭そ病**の発生は、九州の一部地域で「多い」又は「やや多い」、東海及び近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本病は新芽の生育初期が薬剤防除適期になります。本病の発生状況に応じて、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **チャノコカクモンハマキ**の発生は、近畿の一部地域で「多い」又は「やや多い」、南関東、東海、及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。**チャハマキ**の発生は、南関東、近畿及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
これらの害虫は、成虫発生最盛日の7～10日後が薬剤防除適期になります。地域の子察灯やフェロモントラップでの誘殺状況を参考に、薬剤防除を実施してください。

都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

平成23年6月15日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は下記のとおりです。

警報

重要な病虫害が大発生することが予測され、かつ、早急に防除措置を講ずる必要が認められる場合に発表します。

発表なし。

注意報

警報を公表するほどではないが、重要な病害虫が多発することが予測され、かつ、早めに防除措置を講じる必要が認められる場合に発表します。

発表月日	都道府県名	対象作物名	対象病害虫名
6月15日	北海道	イネ科作物	アワヨトウ
6月16日	宮崎県	早期水稲	いもち病（穂いもち）
6月17日	長野県	モモ	せん孔細菌病
6月21日	香川県	カンキツ	黒点病
6月23日	北海道	水稲	イネドロオイムシ
6月24日	茨城県	ナシ	ナシヒメシンクイ
6月24日	宮崎県	いちご	炭そ病
6月24日	和歌山県	カンキツ	かいよう病
6月24日	和歌山県	スイカ	炭そ病
6月27日	大阪府	モモ	せん孔細菌病
6月28日	高知県	水稲	いもち病（葉いもち、穂いもち）
6月28日	鳥取県	ぶどう	べと病
6月29日	茨城県	ぶどう	べと病
6月29日	北海道	水稲	いもち病（葉いもち）
6月30日	長野県	アブラナ科野菜	黒斑細菌病
7月1日	佐賀県	ぶどう	べと病

特殊報

新奇な有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発消長に特異な現象が認められた場合に発表します。

発表月日	都道府県名	対象作物名	対象病害虫名
6月17日	千葉県	ピーマン	ピーマン炭疽病
6月17日	長崎県	キク	キク茎えそ病

用語解説

地域

- ・ 北海道：北海道

- ・ 東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
北東北：青森県、岩手県、秋田県
南東北：宮城県、山形県、福島県
- ・ 関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
北関東：茨城県、栃木県、群馬県
南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- ・ 甲信：山梨県、長野県
- ・ 北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県
- ・ 東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- ・ 近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- ・ 中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- ・ 四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- ・ 九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県
- ・ 沖縄：沖縄県

■ 発生量（程度）

- ・ 多い（高い）：やや多いの外側 10%の度数の入る幅
- ・ やや多い（やや高い）：平年並の外側 20%の度数の入る幅
- ・ 平年並：平年値を中心として 40%の度数の入る幅
- ・ やや少ない（やや低い）：平年並の外側 20%の度数の入る幅
- ・ 少ない（低い）：やや少ないの外側 10%の度数の入る幅

（平年値は過去 10 年間の平均）

【平成 23 年度病虫害発生予報の発表予定】

- 第 1 号：4 月 21 日（木曜日）
- 第 2 号：5 月 19 日（木曜日）
- 第 3 号：6 月 16 日（木曜日）
- 第 4 号：7 月 7 日（木曜日）
- 第 5 号：7 月 21 日（木曜日）
- 第 6 号：8 月 11 日（木曜日）
- 第 7 号：9 月 8 日（木曜日）
- 第 8 号：10 月 6 日（木曜日）
- 第 9 号：11 月 10 日（木曜日）
- 第 10 号：2 月 16 日（木曜日）

お問い合わせ先

消費・安全局植物防疫課

担当者：防除班 黒谷、後藤

代表：03-3502-8111（内線 4562）

ダイヤルイン：03-3502-5976

FAX：03-3502-3386

当資料のホームページ掲載 URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>